令和４年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

（明保地区）

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和４年度　第２回
まちづくり懇談会《明保地区》実施結果報告書

この実施結果報告書は，まちづくり懇談会≪明保地区≫における発言の要旨をまとめたものです。

１　**開催日時**　令和４年７月７日（木）午後７時００分～午後８時３０分

２　**開催場所**　明保地域コミュニティセンター

３　**参加者数**　３５人（市出席者除く）

４　**市出席者**　市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，
西市民活動センター所長，道路管理課長，広報広聴課長

５　**懇談内容**

（１）地域代表あいさつ　　明保地区明るいまちづくり協議会　会長

（２）市長あいさつ

（３）地域代表意見

No.	テ　ー　マ	所　管　課
1	地区まちづくり協議会組織の課題について	みんなでまちづくり課
2	市と地域協働による宇都宮市ゆかりの雨情文化の発信について	文化課
3	ＪＲＡ跡地の将来的展望に立った要望について	景観みどり課 都市計画課

（４）自由討議

No.	要　　望	所　管　課
1	高齢者の地域社会へのデビュー奨励策について	みんなでまちづくり課 高齢福祉課 生涯学習課
2	地区における女性組織体に対する行政（市）との関わりについて	男女共同参画課 みんなでまちづくり課
3	青少年育成会と子ども会に対する行政所轄課と活動助成金について	子ども未来課 生涯学習課
4	「子ども食堂キッチンもぐもぐ」について	子ども未来課

（５）市長謝辞

■地域代表意見１（要旨）

テーマ	地区まちづくり協議会組織の課題について

各地区には，連合自治会とまちづくり組織協議会がある。

テーマとしてはふさわしくない，あるいは地域性のないテーマかもしれないが，質問させていただく。

連合自治会においては，規則があり，出張（会議）のたびに２０００円をいただくなど，行政からの補助金や役職手当も結構出ている。

まちづくり組織協議会においては，昨今，ホームページやまちづくりビジョン，広報誌の作成，定時定路の交通政策の問題など，いろいろな課題があり，どの地区でも，まちづくりの課題はかなりの多くのものが存在している。しかし，このまちづくり組織協議会に関しては，手当が一切ない。役職の方もそうである。

私が会長として行政の会議に行っても，缶ジュース１本だが，連合自治会の会議に出ると，必ず手当をいただく。

このように，「手当なし」という時代に合わない組織が存在している。

これは，誰も今まで問題提起した方はいないと思うが，皆さんに，そのような問題があるということを認識していただきたい。

回　答	所管課：みんなでまちづくり課

【市長】

明保地区の皆様には，野口雨情に関する保存活動，そして地域内交通を立ち上げるために，大変なご苦労をお掛けしている。そのほか，明保ならではの特色あるまちづくりをしていただき，毎回お招きをいただいている敬老会，この設営にも大変お力をいただいている。

そのような中，地域まちづくり組織は地域全体のまちづくり活動を推進するネットワーク組織として，地域の将来のまちづくりの実現に向けて，各種団体などが連携協力して，特色あるまちづくりに主体的に取り組めるよう，地域内の総意の形成を図る重要な役割を担っていただいている。

地域まちづくり組織の代表者の皆様におかれては，地域の各種会議や行事への出席等をはじめ，各種団体間の連絡・調整等を担っていただいている。

御提案の代表者への活動手当については，まずは地域まちづくり組織における活動や運営体制などについて，各地域の皆様から御意見を伺いながら実態を丁寧に把握した上で,役員の役割,また担い手の確保など課題を整理する中で,その手当てについて検討をしていきたい。

また，市としては，地域まちづくり組織が中心となって，魅力あるまちづくりに主体的に取り組んでいただくことが大変重要だと思っている。そうした取

組が円滑に進められるよう，まちづくりに関する相談や関係機関との調整などの支援を行っているが，今後とも，幅広い行政知識の習得や，地域と良好な関係を築ける関係構築力の向上など，市民活動センターのまちづくり支援担当職員の育成をしっかりと図るとともに，地域に寄り添った，そして地域のためになる支援体制の強化にも，併せて努めていきたい。

■地域代表意見２（要旨）

テーマ	市と地域協働による宇都宮市ゆかりの雨情文化の発信について

私は野口雨情文化の発信事業についての紹介と，宇都宮市に対する今後の協力等についてお願いをさせていただきたい。

日本を代表する童謡作家である野口雨情は，この鶴田町で終焉を迎えた。昭和１９年の１月に，東京の吉祥寺から病気療養のために宇都宮の鶴田の地に来て，翌２０年の１月に亡くなったということで，雨情がこの鶴田にいたのは約１年ということである。期間的には短いが，二番目の奥さんのつるさんと子供６人が一緒に連れて来られたわけだが，つるさんと子供は，雨情が亡くなった後もこの鶴田の地で生活をして，奥さんのつるさんは，昭和３０年までこの鶴田に住んでいたということである。

このようなこともあり，この地域の人達は，雨情に対して非常に親しみを感じており，例えばこの地域の道路や橋などにも雨情の名前を冠して，環状線と鹿沼街道の陸橋は「雨情陸橋」，鹿沼街道に架かる川の橋は「雨情橋」，そのほか地域の団体などにも「雨情子供会」や「雨情保存会」といった，雨情を冠した名前を付けて，非常に親しみを感じている。

有形無形の資産というのは,宇都宮にとっても文化の宝であるということで,宇都宮市と商工会議所・観光協会等で「宇都宮雨情会」が一度設立された。

その時は，宇都宮市の助役が会長，地域の有力な方々がメンバーとなり，雨情の活動を検証するということを行っていたが，昭和３５年に設立されてしばらくは活動していたものの，その後は活動が停滞し，近年では全然活動されなくなったということである。

そのため，３０年ぶりに，この明保地区の有志約４０名が再度宇都宮雨情会を結成して，雨情の活動についていろいろ検証しようとしている。

ホームページを立ち上げたり，あるいはパンフレットを大谷資料館やろまんちっく村などに置いて配布したり，情報発信しているところである。

また，今年はちょうど雨情生誕１４０年にあたるということで，県立博物館で雨情に関する記念展示会を，今年の１月から２月にかけて開催した。その時に，宇都宮雨情会もこれに協力をして，雨情情報コーナーを設けて，この展示

会に来られた方に大変好評いただいた。
　このような活動が宇都宮市にも認められ，宇都宮遺産に認定され，今後１０年間，いろいろ活動を通じて援助をいただけるということになっており，大変有難いことだと思っている。
　この宇都宮雨情会を，今後も，この地域だけではなく，宇都宮全体，あるいは宇都宮以外にももっと情報を発信して，多くの人に来ていただくため，活動を続けていきたい。
　そのためにも，宇都宮市に対しては，これからも経済的・事務的な支援や，広報活動に対する支援をぜひお願いをしたい。宇都宮市の文化醸成の一つとして，この宇都宮雨情会をぜひ発展させていただきたいと思うので，よろしくお願いしたい。

回　答	所管課：文化課

【市長】
　野口雨情のゆかりの思い・誇り，そういったものを，今日に至るまで，明保地区の皆さんには，大切にこの野口雨情に関することを守っていただいた。
　市としても，野口雨情が晩年を過ごした旧居に関して，令和４年２月に「みや遺産」として認定させていただいた。市としても，貴重な文化資源だということを認識している。
　また，広く野口雨情を市民の皆さんに周知するために，これまでも，宇都宮の歴史と文化財ホームページそして中学校版の宇都宮学という本の中で，その功績などを紹介したり，また旧居を文化財巡りのコースとして設定をしたり、雨情文化の情報発信に取り組んできた。
　今後については，本年２月にみや遺産に認定されたこの野口雨情の旧居について，宇都宮雨情会の愛護活動や案内版の設置等の費用に対する補助を行うほか,清原にあるとびやま歴史体験館やうつのみや遺跡の広場,宇都宮城址公園,清明館で行う企画展においても，野口雨情旧居の紹介を積極的に行っていく。
　今後とも，宇都宮雨情会の皆さんとともに連携を深めながら，地域の文化・資源を保存，継承する活動等を支援していく。
　また，情報発信についてもしっかり進めていきたいと思うが，これからＪＲ宇都宮駅から西側，ＬＲＴの計画がある。明保地区に近づいてきたら，雨情の案内をしたり，雨情が作詞した代表的なしゃぼん玉の音楽が車内から流れたりするなど，他の地域・他の市では出来ない取組だと思うので，皆さんと相談した上で，そのようなことにも取り組んでいきたい。

■地域代表意見３（要旨）

テーマ	ＪＲＡ跡地の将来的展望に立った要望について

前回のまちづくり懇談会でも提起した課題である。

競走馬総合研究所が下野市に移転し，その後，馬事公苑がオリンピック対策として置かれているが，ここには馬５０頭、職員５０名がおり，来年の秋頃までには，暫定的に縮小しながら運営をし，その後は，管理会社あるいは小規模な職員で対応したいという話がある。

１０ヘクタールという広大な，ポプラの丘や庭園，牧場，馬場，そういった自然な形の土地は宇都宮市の宝だと思うので，これを将来的に，宇都宮市民が有効に活用する場として，考えていかなければいけないのではと思っている。

この土地・緑地ゾーンを，我々としては将来的に活用し，市民の憩いのスペースとしていくべきではないかと思っている。できれば，人の心を育む文化の施設が一番良いのではないか。例えば，県立博物館では大型バスが止められないということが問題になっているが，我々が毎年行っている“文化の旅”で茨城県に行く際には，必ずバス５～６台を停めることができ，また周辺には，終わった後に会食できるスペースもある。そういうものは，宇都宮市が主体で進めるべきではないかと思っているので，将来的展望にたった構想として，考えていただきたい。

回　答	所管課：景観みどり課，都市計画課

【市長】

明保地区の皆様には,地域資源を常に大切にしていただき,感謝申し上げる。

御指摘があったＪＲＡの管理する広大な敷地であるが，羽黒神社，また鶴田沼緑地と隣接をしており，市北西部から続く市街化区域内に残された貴重な緑である。そして，旧宇都宮育成牧場には，庭園・牧場・馬場などの施設が存在をしており，これらの景色は，散策する市民の皆さんに癒しと安らぎを与え，親しまれている。

また，鶴田沼緑地であるが，その事業区域内にあるこのＪＲＡの用地を今まで買ってきたが，今年度に全ての用地取得が完了する予定である。今後も，公益財団法人グリーントラストうつのみやと連携しながら，環境学習の場や身近に自然に触れあえる場所として，良好な自然環境を保全・活用をしっかりと進めていく。

これまでＪＲＡの敷地については，用地取得の打ち合わせに際し，情報交換を行っており，現時点では馬事公苑以外については継続して利用すること，また地域の方々の思いや意向を直接聞いている旨を伺っている。これからも市としては，地元の皆さんの思いや考えを，しっかり伝えていきたいと思う。

なお，ＪＲＡの敷地を含む周辺地域の土地利用についてであるが，ＪＲＡの意向を踏まえる必要があるが，本市においては，「第３次宇都宮市都市計画マスタープラン」において，鹿沼街道沿線については沿道の立地特性にふさわしい土地利用を図ることとしている。

また，「第２次宇都宮市緑の基本計画」において，ＪＲＡの敷地や鶴田沼緑地，こういった大変貴重な，そして豊かな里山環境歴史的環境が残されており，保全配慮地区にも位置づけられていることから，今後とも，これらの計画に基づいて地域の特性を活かしながら，まちづくりを進めていきたいと思う。

■自由討議（要旨）

発 言 １	高齢者の地域社会へのデビュー奨励策について

団塊の世代が７５歳となる２０２５年に向けて，高齢者人口が急速に増え，一人暮らし高齢者や老老世帯への生活支援ニーズなど，高齢化対策が最大の課題となっている。

近年，これらの課題の担い手である自治会役員をはじめ，各種団体役員などの人材確保が難しい状況になっている。これは明保地区に限らず，他地域の自治会においても共通の悩みであり，課題になっていると聞いている。

この要因の一つとして考えられるのは，各企業が定年延長を施行しているため，高齢者の地域社会へのデビューが遅くなり，困難な状況になっているのかもしれない。

これらの状況を踏まえて，どのようにしたら高齢者が地域社会にデビューしていただけるのかについて，一つの方策を申し述べたいと思う。それはシルバー大学卒業生に，地域活動への参加を勧誘することである。シルバー大学は，入学と同時に生きがい推進員を委嘱される。その目的というのは，高齢者が長年培ってきた知識や経験・技能を活かして，地域社会で積極的に活躍していただくことである。つまり卒業後は，生きがい推進員として地域活動を実践する使命を担っているということである。

明保地区の三自治会長は，全員シルバー大学の卒業生であり，正に地域活動の実践の模範を示すものと言える。このほか，自治会役員や各種団体役員等に，多くの先輩卒業生が活躍されている。私も卒業生の一人であるが，諸先輩方が活躍されている背中を見て，卒業後は自然に自治会活動に参加し，活動をしているということである。

明保地区では，このようにシルバー大学の卒業生が多く，我々団塊の世代までは，古き良き伝統が引き継がれ，地域活動の担い手として活躍している。ところが近年は，卒業後に活動する場として，地域ごとに支部があり，ここは宇都宮西第一支部という支部であるが，卒業と同時に入会しない人が多数おり，

地域社会から，シルバー大の卒業生は個人の趣味や個人の生きがいづくり，これを優先しているのではないか，言わば税金の無駄遣いだというような厳しい声も聞かれる。

このような悪しき習慣になっている要因として，シルバー大学本部にも責任の一端があると思う。これまで何名の卒業生を輩出したと数だけを自負するだけで，卒業後どのように活動しているか，全くフォローしてないと言っても過言ではない。これでは，何のために税金を投じてシルバー大学生を養成しているか分からない。あまりにもこのような野放しの状況が続くようであれば，卒業後は地域社会で何らかの活動をすることを義務付けるなどの方策も必要かと考える。

最近，高齢者のスマホデビューというものが活発に行われているようだが，地域デビューは今後もあまり期待できないのではないかと,言わざるを得ない。

そこで，地域活動の推進者を養成するシルバー大学の卒業生を活かさない手はないと思う。具体的に言うと，各地区の卒業生名簿を，行政側がシルバー大学から入手して，各自治会にその名簿の情報を提供して，各自治会が卒業生に地域活動への参加を勧誘する，アプローチするといった，そのような方策を取ってはいかがか。

シルバー大学は，これまで名簿の提出は出来ないという事で，個人情報云々など言って，名簿を開示してもらえなかった。そうすると，この卒業後の活動の場としての宇都宮西第一支部に入会しないと，どなたがこの地域からシルバー大学に行って卒業されたのかが全く分からない。本当に個人の楽しみだけのために，行ったという方も中にいるのではないかと思うくらいである。

こうしたことから，ぜひシルバー大学の卒業生を，地域デビューの１つのターゲットとして，行政側も力を入れていただきたいと思う。

回　答	所管課：みんなでまちづくり課，高齢福祉課，生涯学習課

【市長】

シルバー大学は，多数の卒業生を輩出してきた。宇都宮のまちづくりにも大変なお力をいただいているわけであるが，御指摘の部分については，今後しっかりと改善をしていかなければならないことであり，シルバー大学を育ててこられた方々や卒業生，そして懸命に卒業後社会貢献をされている方々，そのような方々にとっても，今の形は満足出来ないものだと思うので，市としてもしっかりと対応をしていきたいと考えている。

特に，直接卒業生に対するアプローチについて，具体的なお話をいただいたので，それについても持ち帰って進めてまいりたいと考えている。

そのような中で,本市では,第二の人生を健康で生き生きと暮らす事ができるようシニア世代同士の交流や生きがいを見つけるための支援を行うほか，多様な学習機会の提供を通して地域の様々な活動に参加するきっかけを作るなど，

地域社会の発展に向けた人づくりに取り組んでいる。そのため「みやシニア活動センター」においては住み慣れた地域で心豊かに過ごすためのヒントとなる知識や教養を学ぶ地域デビュー講座を実施するとともに，ボランティア活動等に向けた情報提供などを行う出張相談窓口を開設している。

中には定年後，一生懸命地域のために汗をかきたいが，どこに行ったらいいのか，あるいはどんなことをしたらいいのか悩んでいる方，そして結局は社会に出られないまま，定年後を過ごしている方，大変貴重な人材が動かれていないという現状があるので，地域活動へ参加する意欲の向上，そういうものにも繋げるために取り組んでいるところである。

今後とも，地域の御協力をいただきながら，地域活動への意欲関心を高めていくことが出来る講座等を行っていきたい。また，これらの事業により多くの方に参加いただけるように，市のホームページや広報紙，ＳＮＳ等様々な媒体で事業をしっかりと周知をさせていただくとともに，興味・関心を持つ市民の皆様方また意欲のある方々，こういった方々が地域でしっかり汗をかくことが出来る，希望通りの社会が出来るようにしてまいりたいと考えている。

また，こうした講座等を通して，地域活動への参加意欲の高い人材を地域課題の解決に向けた実践的なまちづくり活動に繋げていくため，市民活動センター等がこれまで以上にコーディネート機能が発揮できるように，まちづくり支援担当職員の人材育成を図りながら，地域を支える担い手の確保を支援してまいりたいと考えており，シルバー大学のことについても，対応していきたいと思う。

発 言 ２　地区における女性組織体に対する市との関わりについて

婦人会が解散して，７年が経過している。当時残留となっていたのが，７地区と承っている。明保地区では１４年前に活動が枯渇化していた婦人会を解散し，新しい時代への地域社会での女性活動の団体として，雨情女性クラブを発足した。以来，明保地区まちづくりの中枢団体として，様々な活動をしている。

その中で所轄課であった生涯学習課においては，残存していた婦人会を含めた各地区の婦人団体による情報交換の場を作っていただいが，それらの活動も２・３年で途絶えてしまった。他の地区においても，女性団体の活躍は地域まちづくりにとって，不可欠な団体として高く評価されている。

また各団体には，行政担当の所轄課があり，活動助成金を含めた協働・連携のもとに活動にチャレンジしている。女性団体も他の団体と同じように，共生と地域とが連携しながら指導育成を図り，助成金を何とか出していただきたい。

回　答	所管課：男女共同参画課，みんなでまちづくり課

【市長】

婦人会の解散は，本当に残念であったが，その後，このように自主的な活動をされていることに対して，本当に頭が下がる思いである。

女性が中心となった活動団体が各地区で活躍し，また女性の視点や意見が地域づくりに反映されることは，本当に良いことだと思う。地域コミュニティの活性化,また男女共同参画の推進においても,プラスになることだと思うので,これからもご苦労があるかと思うが，活動を頑張っていただきたい。そのためには，いろいろなサポートをさせていただかなくてはならないと思っている。

市では，男女共同参画課において，広く市民に対して，地域活動で活躍する女性の紹介や地域女性リーダー育成講座の開催，また女性団体の交流促進に取り組んでいるほか，市民活動センター等においても，各地区の女性団体を含めたまちづくり団体に対して，地域づくりに関する情報提供や相談等の支援を行っている。

その他に助成をということであるが，例えば野口雨情を全市的に紹介する周知のイベントなど，そういうものを行うときは「市民活動助成事業」というものがあり，ここで助成金が使えるので，ぜひそういうものにも応募していただければと思う。現時点では,そういったものが活用できるが,今後については,様々な地区で皆さんと同じような動き，あるいは団体が結成されて動きがある場合には，市としてもさらに考えていきたいと思っている。

また，昨年度から，地域における女性の活動を促進するために，女性自治会役員を対象にした意見交換会を実施している。本年度はさらにその対象を広げて，地域の女性団体の方々に対しても,「地域で女性が活躍できる環境づくり」をテーマにした講演会や意見交換会を実施する予定であるので，ぜひ参加していただいて，様々な情報の交換，あるいは独自の雨情の活動というのは他の地区にないものだと思うので，ぜひ発表などしていただけると，他の地区にも刺激になると思う。

市としても,女性団体の方々がそれぞれの地域でどんな活動をしているのか,またそのボリューム等も踏まえ，先程申し上げた活動助成金以外のことについえも考えてまいりたい。

発 言 3	青少年育成会と子ども会に対する行政所轄課と活動助成金について

明保地区では，活動事業が類似している明保地区青少年育成会と明保地区子ども育成会連絡協議会を統合して，明保地区青少年・子ども育成会を発足させ

た。
　結果，各行事を合理的に運営することと，統合したことにより，児童・生徒・父兄・役員等の負担がかなり少なくなったと思う。
　しかし，それを統括している行政所轄課が，青少年育成会は子ども未来課の宇都宮市青少年育成市民会議，そして子ども会は生涯学習課の宇都宮市子ども会連合会というような所轄になっている。
　いくら末端の私達が合理化をしても，結局，会議や補助金の申請等の業務が重複しているので，各方面にも出向かなければならないので，これをできれば一元化の方向で考えていただければ，大変負担が少なくなり運営がしやすくなると思うので，提案する。
　また各助成金のことであるが，まず青少年育成会は事業費の５０％，上限を９３，０００円としており，子ども会は２５，０００円となっている。その子ども会の助成金についてであるが，その２５，０００円に対して，市子連への拠出金，一応会費であるが，これが２０，０００円となっている。２５，０００円の中，会費が２０，０００円を支払うという，約８０％が助成金に対しての拠出金となっているので，このことについては，これからを担う青少年や子ども会に，十分にいろいろな機会を与えられる投資だと思って，拠出金の見直しをしていただけばと思っている。
　以上が，明保地区青少年・子ども育成会の提言となる。よろしくお願いする。

回　答	所管課：子ども未来課，生涯学習課

【市長】
　私も小学校の頃，育成会には大変お世話になった。例えば，夏休みに海に一泊で旅行に連れていってくれるなど，育成会や子供会の皆さんがやっていただいたことを，今でも鮮明に覚えている。まさしく地域で子ども達を育てる，そういう大人の社会があったのだと思う。そのような中で，本当にお力を頂いていることに，心から感謝を申し上げたいと思う。
　まず，子ども会であるが，小学生を中心とした地域の子供達が，仲間との活動を通じてたくましく成長することを目的としており，各地区においては子ども会リーダー研修会・子ども祭り・工作教室などの活動を，保護者など地域の大人たちの支えを得ながら実施している。
　また，宇都宮市子ども会連合会については，これは任意団体となっており，各地区の子ども会を構成団体として，その相互の連携強化・活性化を図ることを目的とし，全市的な社会教育の振興に寄与する活動をしているので，社会教育を所管している教育委員会の生涯学習課が，『社会教育関係団体補助金』を交付しているところである。
　次に，青少年育成会であるが，各地域に住む大人たちが主体となって，主に小学生から高校生の活動を援助し，健全な育成を図ることを目的としており，

各地区において，環境点検や巡回指導のほか，成人式や地区のイベント等への協力等の活動を実施している。

宇都宮市青少年育成市民会議であるが，これは任意団体であり，３９地区の青少年育成会と小・中高等学校の校長会やスポーツ少年団本部，宇都宮青年会議所等，幅広い団体で構成されており，構成団体が相互に連携しながら，健全育成活動を推進することを目的としている。青少年の健全育成を所管している子ども未来課が宇都宮青少年育成市民会議へ助成金を交付するほか，事務局として運営を支援している。役割がやはり違うということ，それによって所管も違うということである。

このような中，明保地区と同様に，子ども会と青少年育成会が統合されている地区があるが，役員の負担軽減や事務事業の合理化が図られていると伺っている。

こうした状況を踏まえて，各団体の意向について実情の把握に努めるとともに，今後とも各団体が活動を継続できる支援を，市の方では考えてまいりたいと思う。

また，宇都宮市子ども会連合会の会費の件であるが，これは宇都宮市子ども会連合会が会員の総意の基で決定をされている。つまりは，会員の総会の中で決定されていると思うので,いただいたご意見については,子ども会連合会に,市の方から伝えさせていただく。

発 言 ４　「子ども食堂キッチンもぐもぐ」について

私たちは，居場所づくりとして「子ども食堂キッチンもぐもぐ」を始めた。

貧困家庭の支援として，小学生・中学生２００円，大人４００円で，昨日も２０数名の方が来た。貧困家庭と言っても，お金であったり，心の貧困であったりいろいろあると思うが，そういう方にぜひ利用していただきたいと思っているものの，当初の目的のようには，なかなかうまくいかない状況である。

市に広報活動をサポートしていただければありがたいと思うので，よろしくお願いする。

なお，回答は不要である。